

虚子記念文学館投句特選句・令和八年七月

稲畑廣太郎 選

南部鉄風鈴重し音の軽し

兵庫 金田八江子

峰雲や季題をかたり合ふ授業

神奈川 進藤剛至

七月の風聞き分けて川の鳥

兵庫 平田 恵

青空は視界の全て外寝どき

千葉 野末トヨ

紫陽花の沸き立つあとの夢のあと

埼玉 吉田春代

炎天や屋根のシーサー炙らるる

石川 杉村佳津子

遠ざかる艶に泰山木の花

兵庫 吉田知子

雨粒を弾き紫陽花日和かな

兵庫 小柴智子

ほうたるや御影の夜を弔ひぬ

兵庫 杉浦萌芽

蝉時雨円陣解けて声響く

兵庫 藤丸慎士

（青少年）

入選句・令和八年七月

トマトもぐ庭に菜園ある暮らし	埼玉	小田毬藻	外つ国へ子らと発つ日や明易し	岡山	辻田詔子
マリーゴールド小鳥のやうな妻の息	大阪	押見げばげば	黴も又親しき虚子の蔵書かな	兵庫	黒田千賀子
吾の汗をそしらぬ顔する検診衣	千葉	鹿野川小舟	ナイターや売り子のラメも煌めきて	兵庫	村原美可
蛍葉の表に透くる命かな	埼玉	木村朴听	梅雨雲を抜け真つ青な空の旅	兵庫	上岡あきら
師の庭に合歓満開に師を偲ぶ	岡山	伴 明子	公園のテレビでナイター見し昭和	大阪	田邊育子
講義中ふと目のゆく青田かな	大阪	白石 翠	踏切の棒が折れしと梅雨の朝	兵庫	小川孝子
交差点地軸の歪みたる極暑	兵庫	足立朱麻	洗ひ髪梳けば解かれゆく心	大阪	杉山千恵子
植田風結のけんずいちらし寿司	三重	池本準一	ナイターの熱気夜空を突き抜けて	兵庫	金田八江子
明鏡止水激怒もありし夏の川	兵庫	細田清子	燈籠に貼り付く蜘蛛の夜の刻	群馬	齊藤孝弘
六甲へ角振る太き蝸牛	大阪	立入宮子	館と邸繋ぐやさしき合歓の花	兵庫	奥田好子
絶壁の上鳳梨の畑広ぐ	奈良	堀田ますみ	初蟬や空の五線譜はみ出して	岡山	石井宏幸
下ぶくれ肌の色よしパイナップル	奈良	堀田建夫	これ以上白くはなれぬ半夏生	大阪	多田羅紀子
怪談の突と始まる夕端居	大阪	若林友子	桜の葉全てレースにして毛虫	香川	三宅久美子
大蜘蛛を掃り出す朝の古家かな	大阪	河村久美子	魚焼く団扇係の要る七輪	兵庫	槌橋眞美
五月闇打てぬ打たれるタイガース	兵庫	森岡喜恵子	一斉といふ風鈴の風軽し	大阪	林 曜子
同じ汗かいて青春分かち合ふ	大阪	米澤悦子	草叢と戯れてゐる夏の蝶	石川	辰巳葉流
梅雨深し曖昧に日の暮れにけり	大阪	吉井清子	焼締めに小さきカラーや虚子の卓	兵庫	辻田あづき
大母の桐の箆笥や更衣	兵庫	高野さち	列島に喜雨の恵みと災ひと	鳥取	前田 千
見開いて何を諭さむ花桔梗	兵庫	宮本露子	つけ慣れぬアクセサリーにある暑さ	京都	山崎貴子
五十元握りしめる子パイナップル	大阪	ふじもと言果	父の日や父の自慢を聞くことに	石川	白根寿子
どう持つもパイナップルの持ちにくく三重		前出美千子	梅雨じめりして虚子館の重きドア	兵庫	深尾真理子
合歓の花咲いて己を主張せり	三重	前出公子	仮りの世といへどうつつの夕涼み	徳島	多田まさ子
鳳梨のじわと滴る甘き汁	兵庫	小林昌子	俳磚の文字あをあをと梅雨ふかし	鳥取	棕 誠一朗
ナイターや夜風の囁るる外野席	兵庫	山之口倫子	そろり行く峡の吊り橋合歓の花	兵庫	永沢達明

青葡萄そろそろ初恋色となる	兵庫	辻 桂湖	青に引く水脈のますぐや鰻料理	兵庫	川村ひろみ
露涼し勝者敗者の区別なく	兵庫	岸川佐江	鰻食べてこれからの日日乗り切らん	兵庫	山口弘子
梅雨空を開けて大阪締響く	兵庫	吉村玲子	風鈴に真昼の静のありにけり	兵庫	山岸正子
山百合や兵隊ごつごした道に	茨城	杉山 満	八坂へと鰻道中の京絵巻	兵庫	河合美恵子
コンタクトレンズのごとく二月尽	熊本	夏風かをる	扇風機止めて黙禱する正午	奈良	豚々舎休庵
疲れ果て眼にするのみの雲海よ	愛知	海神瑠珂	人体は左右非対称海水着	兵庫	天下明太郎
よく通る声の舞妓や川床の席	京都	前 悦子	澄む水にイモリのたてし泥揺れる	愛知	上手智子
夕菅に旅の余韻の広ごりぬ	大阪	河辺さち子	ソーダ水成績表を見せ合ひて	東京	清水あき
何もせず心乾かす梅雨晴間	大阪	須知香代子	草いきれ得体のしれぬ物を踏む	兵庫	高市敦之
午後の日に吐息をもらす蓮の池	兵庫	池田文子	ナイターやジェット風船孵ること	兵庫	風待フテ
俳磚に先師を偲ぶ合歡の花	京都	西村やすし	読み聞かせの絵本を閉ぢて星涼し	大阪	森重深鶴
喜雨盛る流れの奏づメヌエツト	兵庫	西村みどり	ソーダ水放つ言の葉尽きにけり	兵庫	岩永静代
扇風機まはる掃除を終えた部屋	千葉	志村 肇	街中のカフェに逃れし酷暑かな	兵庫	春の新々
子を肩に尺玉開く闇仰ぐ	奈良	堀ノ内和夫	白百合の背負へる白の重さかな	兵庫	伊集院秀樹
老医師の筆を励ます雲の峰	大阪	富永武司	打ち水に誘はれ京の道迷ひ	兵庫	福田光博
名の消えし水のまぶしさ夏燕		河埜スミ子	ゆく秋やまだかをりしてゐる野原	三重	水越晴子
川底のゆれるひかりや夏の朝	三重	瀬川琴女	それぞれに思ふことあり大花火	兵庫	松本 敬
「ようちえんいやや」と泣く子茗荷の子大阪		棕本望生	七月の褪せた楽譜の紙テープ	静岡	いたまき 忖
山梔子の香のふつと立つ雨上り	鳥取	棕 則子	びいどろの風鈴残る祖母の部屋	大阪	深森佳鶴
身を粉にし社を守り杜涼し	京都	杉森大介	颯爽と空調作業炎暑かな	大阪	深森明鶴
夕焼や子供ひとりの遊びゐる	岐阜	丸山美樹	朝夕の海の翳りや秋隣	香川	葛原由起
手応へはいつもと違ふ大夕焼	富山	三河三可	嵐去り何も無きかに滝涼し	兵庫	高橋純子
繋ぎゆく思ひ出の日々女王花	兵庫	玉手のり子	帰省子の話す都会は住みやすし	兵庫	恵島祥一郎
八十年食はず嫌ひの鰻の貌	兵庫	三木雅子	幼き日遊びし庭の百日紅	兵庫	恵島京子
雨の日の風鈴ややも湿りがち	兵庫	柄川武子	葉隠れや瓜に化けたる大胡瓜	神奈川	小林 心

迎馬小さき父母の二人乗り	大阪	坂口うらら
万緑や出しつばなしの水飲み場	神奈川	金子三奈乃
しあわせは朝陽の香なりプティトマト	神奈川	平野孤舟
鰻焼く煙に列は伸びてゆき	和歌山	中島紀生
揺り椅子にまどろむ午後や蝉涼し	兵庫	矢車星風
羊水のやうな大気よ蝉時雨	京都	草夕感じ
ハンモック上と下とに世界あり	兵庫	太平楽太郎
夏の地震昇天したるヨハネ像	熊本	貴田雄介
洋上にアイスコーヒー銀の盆	兵庫	キートスばんじょうし
空蟬の壊れ落ちたる過疎の邑	滋賀	近江堇花
片陰や決まらぬ会議描心	兵庫	古結 亘
城涼し潮風抜ける天守閣	兵庫	藤丸千香子